

様式（文部科学省ガイドライン準拠版）

令和元年度

自己評価報告書

令和2年3月15日

華服飾専門学校

目 次

本書の使い方.....	1	5-19 学生生活	34
1 学校の理念、教育目標	2	5-20 保護者との連携	37
2 本年度の重点目標と達成計画.....	3	5-21 卒業生・社会人	38
3 評価項目別取組状況.....	4	基準 6 教育環境.....	40
基準 1 教育理念・目的・育成人材像.....	5	6-22 施設・設備等	42
1-1 理念・目的・育成人材像.....	6	6-23 学外実習、インターンシップ等	44
基準 2 学校運営.....	9	6-24 防災・安全管理	45
2-2 運営方針.....	10	基準 7 学生の募集と受入れ	47
2-3 事業計画.....	11	7-25 学生募集活動	48
2-4 運営組織.....	12	7-26 入学選考	50
2-5 人事・給与制度.....	14	7-27 学納金.....	51
2-6 意思決定システム	15	基準 8 財 務.....	52
2-7 情報システム	16	8-28 財務基盤	53
基準 3 教育活動.....	17	8-29 予算・収支計画	55
3-8 目標の設定	18	8-30 監査	56
3-9 教育方法・評価等	19	8-31 財務情報の公開	57
3-10 成績評価・単位認定等	22	基準 9 法令等の遵守.....	58
3-11 資格・免許の取得の指導体制.....	40	9-32 関係法令、設置基準等の遵守.....	59
3-12 教員・教員組織	23	9-33 個人情報保護	60
基準 4 学修成果.....	25	9-34 学校評価	61
4-13 就職率	26	9-35 教育情報の公開	63
4-14 資格・免許の取得率	27	基準 10 社会貢献・地域貢献	64
4-15 卒業生の社会的評価	28	10-36 社会貢献・地域貢献	65
基準 5 学生支援.....	29	10-37 ボランティア活動	67
5-16 就職等進路	31	4 令和元年度重点目標達成についての自己評価	68
5-17 中途退学への対応.....	32		
5-18 学生相談.....	33		

本書の使い方

- 1 本書は平成 25 年 3 月、文部科学省が策定・公表した「専修学校における学校評価ガイドライン」（以下、「ガイドライン」という。）に示された「項目別の自己評価表(例)イメージ」及び「自己評価における評価指標・観点・参考資料一覧表(イメージ案)」などを参考に全体を構成しました。
また、評価項目は、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構(以下「機構」という。)がガイドラインに準拠して制定した「専門学校等評価基準書 Ver4.0」を適用しています。
- 2 従来の「評価項目別取組状況」に「学校の理念・教育目標」、「年度の重点目標と達成計画」、「年度の重点目標達成についての自己評価」を加えることにより、ガイドラインに示されている PDCA を活用した自己評価を進めることができるようになっています。
- 3 ガイドラインでは、「項目別の自己評価表(例)イメージ」において取組状況を 1 から 4 の評語を用いて自己評定する様式を例示しています。このことから、本書でも「評価項目別取組状況」の小項目毎に評定欄を加えました。評語の考え方の例は、以下のとおりです。但し、評定については学校ごとの考え方により実施しない学校においては評定欄を削除してお使いください。

※評語の意味

- 4 適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。

- 4 本書は、学校関係者評価を円滑に進めるために、記述のうち「学校の理念・教育目標」、「年度の重点目標と達成計画」、「年度の重点目標達成についての自己評価」など部分的にピックアップして評価を行うことができるように構成していますので、学校関係者評価実施においても活用できます。
- 5 本書はワード形式で作成しています。学校の考え方により適宜変更して使用してください。ご不明な点につきましては、機構事務局までお問い合わせください。

連絡先 03-3373-2914 info@hyouka.or.jp

1 学校の理念、教育目標

教 育 理 念	教 育 目 標
学校法人華学園の歴史は、昭和 21 年東京都台東区に開設した華洋裁研究所に始まり、創立以来、建学の精神である「華学園の教育を通じて、時代の求める職業人を育成し、社会の発展に寄与する事」を理念に、昭和 51 年に、華服飾専門学校（以降「本校」と略す）を開設し、行動指針の第一条に「社会のニーズを知り、技能を修得し知識と礼節を身に付けること」として服飾の専門職業人を養成している。	本校では、設立母体である学校法人華学園の寄附行為に「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、私立専修学校を設置し、学校教育を行い、社会に役立つ人材を育成することを目的とする。」と定め、学則第 1 条に「本校は服飾に関する専門的学理と技術を教授し、職業、実際生活に必要な能力を育成すると共に、教養の向上を図り、我国文化並びに社会に貢献すること」を教育目標として明確に定めている。併せて職業実践専門課程認定校として、常に時代に沿った企業が求める職業人を育成することを目標としている。 職業人の育成としては、先ずは就職することが専門学校としての必須条件と考え、服飾の専門職業人としての多様な服飾関係業務への就職に力を入れ、就職担当・担任による完全サポートを行っている。さらに職業人(社会人)になるための教育として、社会人マナー等の基本知識をはじめ、校訓の「誠意、熱意、創意」を合い言葉に、社会人として必要な資質の育成も行っている。

最終更新日付

令和 2 年 3 月 15 日

記載責任者

坂本 克雄

2 本年度の重点目標と達成計画

令和元年度重点目標	達成計画・取組方法
I. 学生募集 ～出願率を上げるために～ 1: 学生募集に関する問題点・課題 2: 校内ガイダンス参加状況 3: 華の魅力を伝える 4: 華の独自性とは 5: 入学パンフレットの見直し II. 教育活動 ～学生の質の向上～ 1: 技術力の向上 ①カリキュラムの検討 ②学内審査会 ③プロソーイング 2: プレゼン力の向上 3: IT・ICT 関連教育の推進 III. 教職員の資質向上 ～教職員の企業現場研修実施～ IV. 学修成果 ～第一希望合格率 80% 目標～	I. 学生募集 1. 課題の洗い出しを行い。オープンキャンパスからの出願率を上げる。 2. 校内ガイダンスへの参加を強化し、HANAの認知度を上げる。 3. 教員による高校への訪問によって華の魅力をアピールする。 4. 独自のオリジナル授業やタブレット導入をSNS等でアピール。 5. 入学パンフレットの内容を見直し、楽しさや技術力、発表力の向上アピール。 II. 教育活動 1. 技術力の向上を図る。 技術に関する授業時間を見直し、学内審査会やプロソーイングの強化 2. プレゼン力を向上させるため、学内審査会や授業内でプレゼンする機会を増やす。 3. パワーポイントやタブレットを授業内で活用 III. 教職員の資質向上 教職員の企業現場研修を実施する。 IV. 学修成果 1. 就職に対する早期意識付け 2. 受験先企業の採用試験内容に応じた個人指導の徹底 3. 受験機会を増加させるための縫製企業開拓強化

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

3 評価項目別取組状況

基準1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は、昭和21年に創立された華洋裁研究所に始まり70年以上の歴史を有する。創立以来、建学の精神である「華学園の教育を通じて、時代の求める職業人を育成し、社会の発展に寄与する事」を理念に、「本校は服飾に関する専門的学理と技術を教授し、職業、实际生活に必要な能力を育成すると共に、教養の向上を図り、我国文化並びに社会に貢献することを目的とする。」を教育目標として明確に定め取り組んでいる。さらに、社会人としての礼儀やマナー、コミュニケーション能力や課題解決力等「社会人基礎力」もあわせて育成すべきであると考え、教育活動に取り組んでいる。	教育理念・校訓・目的については、学校案内や学生便覧等に記載し、さらに教職員全員に研修等を通じて常に確認する。学生の保護者にも説明の機会を設け、教育理念に基づく本校の服飾に関する専門職業人育成の特徴を明確にすることが重要である。	平成26年4月、文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認定を受けている。 「華学園の教育を通じて、時代の求める職業人を育成し、社会の発展に寄与する事」を建学の精神としている。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	☒ 理念に沿った目的・育成人材像になっているか ☒ 理念等は文書化するなど明確に定めているか ☒ 理念等において専門分野の特性は明確になっているか ☒ 理念等に応じた課程（学科）を設置しているか ☒ 理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか ☒ 理念等を学生・保護者、関連業界等に周知しているか ☐ 理念等の浸透度を確認しているか ☐ 理念等を社会等の要請に的確に対応させるため、適宜、見直しを行っているか	4 4 4 4 3 3	理念・目的・育成人材像は明確に定められている。 理念・育成人材像は、建学の精神「華学園の教育を通じて、時代の求める職業人を育成し、社会の発展に寄与する事」と明文化されており、目的は学則第1条に「本校は服飾に関する専門的学理と技術を教授し、職業・実際生活に必要な能力を育成すると共に教養の向上を図り、我国文化並びに社会に貢献することを目的とする。」と定められている。 「学則」と「建学の精神」を記載した学生便覧を作成し、学生に配布し、保護者に渡すよう指導している。	特になし。	特になし。	・学則 ・入学案内 ・ホームページ ・学生便覧
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	☒ 課程（学科）毎に関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか ☒ 教育課程、授業計画（シラバス）等の策定において関連業界等からの協力を得ているか	4 4	教育課程の編成と授業計画は関連業界の委員で構成された教育課程編成委員会にて意見聴取し、編成されている。実習の実施や教員採用に関しても業界から協力を得ている。	特になし。	特になし。	・学則 ・入学案内 ・ホームページ ・シラバス ・教育課程編成委員会議事録

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-2 続き	☒ 専任・兼任（非常勤）にかかわらず教員採用において関連業界等からの協力を得ているか ☒ 学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか ☐ 教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか	4 4	関連業界が求める人材要件を、『評価基準書』として作成し、それを技術力の到達目標として活用している。シラバスに記載の学習到達目標と整合性をとっている。	特になし。	特になし。	・評価基準書 ・シラバス
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	☒ 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか ☒ 特色ある職業実践教育に取り組んでいるか	3 3	社会人基礎力の向上のために、アクティブラーニングを活用した『イベント企画』『ブランド企画』等で特色ある教育に取り組んでいる。また実学研修を主とした実践教育にも取り組んでいる。	アクティブラーニングの更なる活用方法の検討が必要である。また社会人基礎力のなかで「プレゼンテーション力」の向上が重要となっている。	「プレゼンテーション力」向上のために、質問力向上を授業に取り入れる事を検討する。	・シラバス ・入学案内

1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	☒ 中期的（3～5 年程度）視点で、学校の将来構想を定めているか ☒ 学校の将来構想を教職員に周知しているか ☒ 学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか	3 3 3	学園創立 70 周年を迎え中期 3 ヶ年経営計画を策定して、教育システムの確立、教員の資質の向上、学生の質の向上、教育環境の充実の 4 本柱を示し取り組んだ。単年度の重点目標・活動計画に落とし込み学校関係者評価委員、教育課程編成委員、教職員、学生・保護者・関連業界等に周知して推進している。	3 ヶ年計画が終了して、その結果を踏まえて次の 3 ヶ年計画の策定が必要である。	特になし。	・重点目標達成状況 平成 31 年度活動計画表
-------------------------------	---	---------------------	--	--	-------	----------------------------

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校の理念・目的・育成人材像といった本校の設立の趣旨は定めてあるが、その設立の趣旨を実現していく為の実効性が高いカリキュラムの大幅な見直しを行い、平成 29 年度学則変更をして新カリキュラムでの運用を開始した。また平成 30 年度「単位制」「選択授業制」を導入した。 中期 3 ヶ年経営計画を策定して、教育システムの確立、教職員の資質の向上、学生の質の向上、教育環境の充実の 4 本を柱に活動した。	特になし。

最終更新日付	令和 2 年 3 月 15 日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------------	-------	-------

基準2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
基本的な運営方針は定められている。教育方針に沿った形で、授業が編成され、この授業実施に向けて設備投資や人材確保がなされる。 各部、各係が次年度の方針を打ち出し、それに伴う予算案を提出し方針が確定される。予算の執行に関しては都度、稟議書を作成しチェックする体制がとられている。 運営組織は明確になっており、法人部門と学校部門の権限と職務分掌もなされている。 多大な設備投資や、人材雇用については稟議制度に則り承認を得るシステムになっている。 人事や賃金での処遇に関しては、半年毎の人事考課により個々人が目標設定し、その達成度合いを自己評価し、その後、直属上司による評価、幹部の総合的評価を経て決定している。 今後は、18歳人口が減少する中でいかに定員確保をしていくかが大きく重要な課題である。 職業実践専門課程の目的に沿ったカリキュラムの再編成を行い、関連企業が求める社会のニーズに適った学生の育成のための改善の検討と速やかな実施が不可欠である。	学校運営にあたり、常に全教職員が魅力ある学校づくりのために、重点目標を念頭に置き、重点目標実現のための具体的な方策の検討と実施により、必要とする望ましい授業を提供することができるよう取り組むことが重要である。そのためには教職員が常に共通理解を持つことが必要であり、教職員が一丸となって取り組む体制の整備が必要である。	服飾校組織図に則り学校運営を進める。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

2-2 運営方針

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか	☒ 運営方針を文書化するなど明確に定めているか ☒ 運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか ☒ 運営方針を教職員等に周知しているか ☒ 運営方針の組織内の浸透度を確認しているか	3 3 3 3	校長の運営方針に従い明確に定められている。 年間事業計画は前年度の実施状況と反省に基づき計画され、理事会・評議員会の承認を得て実施している。 運営方針は、教職員会議や学内掲示物を通して周知している。	特になし。	特になし。	・教育方針 ・重点目標活動計画 ・年間事業計画

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
校長の運営方針に基づき学校の運営方針は明確に定められているが、意識改革など更なる教職員への浸透を図る必要がある。	特になし。

最終更新日付

令和2年3月15日

記載責任者

坂本 克雄

2-3 事業計画

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	☒ 中期計画（3～5 年程度）を定めているか ☒ 単年度の事業計画を定めているか ☒ 事業計画に予算、事業目標等を明示しているか ☒ 事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか ☒ 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期・内容を明確にしているか	3 3 3 3 3	中期3ヶ年経営計画及び前年度の事業計画及び実施状況とその反省に基づく改善を行い、新年度の事業計画予算案を立案している。立案した事業計画予算案は、学園事務局に提出し、精査して執行している。 事業計画の進捗状況については、推進会議等で報告・審議している。 予算は事業計画に従い稟議書を作成し稟議審議により補正され、承認を経て執行されている。	特になし。	特になし。	・中期3ヶ年経営計画 ・理事会・評議員会決議録 ・事業計画書 ・重点目標・活動計画書 ・稟議書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中期3ヶ年経営計画を踏まえ前年度末までに各部・各係が計画した事業計画案をまとめ、服飾校事業計画として学園事務局へ提出し、その承認をもって実施している。常に新しい事項を取り入れることが重要である。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

2-4 運営組織

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	☒ 理事会、評議員会は、寄附行為に基づき適切に開催しているか ☒ 理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか ☒ 寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	4 4 4	理事会・評議員会は5月と11月の2回定期的に行われ、必要に応じて臨時に行われている。 学校法人全体の組織図と学校毎の組織図が示されており、理事会・評議員会の決定に従い、各学校が実施している。	特になし。	特になし。	・理事会・評議員会議事録 ・評議員名簿 ・学校法人の組織図 ・華服飾専門学校組織図 ・寄附行為
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	☒ 学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか ☒ 現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか ☒ 各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか ☒ 会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか ☒ 会議、委員会等の議事録（記録）は、開催毎に作成しているか ☒ 組織運営のための規則・規程等を整備しているか ☒ 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	4 4 3 3 3 3 3	毎年の年度初めに異動の発表と共に、組織図が掲示されている。 各部署の役割分担は組織図をもって示している。指定の会議報告書に議事録をまとめ、学校長の承認後、必要に応じ教職員や他の部署に回覧等による方法等で周知を行っている。	特になし。	特になし。	・学校法人の組織図 ・華服飾専門学校組織図 ・会議議事録 ・職務分掌

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-4-2 続き	☒ 学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取組みを行っているか	3	学校運営に携わる事務職員も、多様化する教育を支える能力が必要となり外部研修に参加して資質の向上に努めている。	特になし。	特になし。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
運営組織は明確化され、組織としても整っているが、学校全体としての方向性がずれないように縦の指示系統を明確にすることと、横の相互の連絡を緊密にして協力していくことがより必要と考える。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

2-5 人事・給与制度

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	☒ 採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか ☒ 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか ☒ 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか ☒ 昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか ☒ 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか	3 3 3 2 2	各校より提出された人員計画に基づき、学園事務局を含めて検討し次年度採用計画を決定する。 「華学園給与規程」に基づき運用している。 昇任・昇格については理事長、校長等の面接のうえ協議により決定している。 明確な人事考課制度を策定すべく検討している。	従来の月給制による定期昇給制度から業績評価による年俸制へとシフトさせ、個々の努力や実績を反映すべく、抜本的な見直しをした。 そのための評価基準および年俸表の策定が急務である。	昇任・昇給に関する規程を策定するために、人事考課制度の明確化を図り、適切に運用する。	・就業規則 ・給与規程

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
公平かつ明快な人事制度の構築は急務であり、その考え方に基づいた給与制度へと移行するため、規程や基準を整備し、適切に運用することが肝要である。 教職員の人件費は固定費のため、その数字を明確に把握し、コントロールすることで単一の学校の財務だけに限らず、学園全体の財務状況の健全化を図らなければならない。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月14日	記載責任者	岡田 和典
--------	-----------	-------	-------

2-6 意思決定システム

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	☒ 教務・財務等の業務処理において、意思決定システムを整備しているか ☒ 意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか ☒ 意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか	3 3 3	意志決定は稟議が行われ、決定の課程は稟議書として記録している。承認がおりた段階で起案者に連絡されるシステムが確立されている。	理事会だけではなく、学園の経営計画に基づく学校の運営方針を決定するための機関が明確ではない。 各種委員会、各学校の意志決定を制度化する必要がある。	理事だけではなく、校長や幹部の入った意思決定システムを確立する必要がある。 職務分掌、組織規程の見直しをする。	・稟議書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理事会、各種委員会、その他各階層の意思決定組織の役割を制度化する必要がある。そして、それらの意思決定が適切かつ円滑に、一つのシステムとして機能していかなければならない。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月14日	記載責任者	岡田 和典
--------	-----------	-------	-------

2-7 情報システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	☒ 学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか ☒ 情報システムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか ☒ 学生指導において、適切に学生情報管理システムを活用しているか ☒ データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか ☒ システムのメンテナンス及びセキュリティ管理を適切に行っているか	3 2 3 3 3	学校独自の閉じたシステムから、入学前・在学中・卒業後といった他部署を横断するような情報管理システムを構築すべく平成 28 年度より統一のシステムを構築し、平成 30 年度より運用を開始した。	平成 28 年度より構築した学生システムが平成 30 年度より稼働しはじめたものの、細かい点での修正は必要。 学生向けのシステムは整備しているが、教職員の統一された情報システムがない。	より良いシステムを構築するために今後細かく修正を加える。 教職員の統一された情報システムを構築し、業務の効率化を図る。	・システム概要 ・構成図 ・仕様書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
これまで学生募集、学生の情報は別々に管理しており、合理的な管理ができていなかったが、昨年度より一元管理が可能になった。今後は入学前→在学中→卒業後と統一された情報管理により適切な活用を目指す。	特になし。

最終更新日付

令和 2 年 3 月 14 日

記載責任者

岡田 和典

基準3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育課程編成委員会を通じて理念に沿った新たな教育課程を再編成した（平成29年度学則変更をして新たな教育課程で運用を開始した、また平成30年度より「単位制」「選択授業制」を学則変更して導入した。）、到達目標は「評価基準書」として著わされており、科目毎の教育到達レベルはシラバスに明記されている。また資格取得に関しては、服飾の専門課程においては、取得可能な資格への取り組みを継続する。 教育課程編成委員会の提言に基づき授業は編成されており、授業目標はシラバスに明記されている。シラバスは作成しているが更なる内容の精査が必要で検討した結果、平成30年度後期より授業の進行状況を記載できるようにシラバスのフォーマットを変更した。 資格・免許取得の指導体制は確立されており、不合格者に対する指導体制も整備されている。 教育システムの確立をⅠ．評価基準書作成Ⅱ．カリキュラム編成Ⅲ．シラバス作成Ⅳ．授業評価実施の4段階で行った。中期3か年計画の最終年度平成30年度に一応完了したので、今後精査していく予定である。	新たな教育課程の考え方は、専門は基本を幅広くと、社会人基礎力の向上を柱としている。 学科・コース毎に取得すべき資格等を選定して、目標合格率を設定して、積極的に取得を目指す取り組みを継続する。 教育システムは一応完了したが、今後も教育課程編成委員会での意見をもとに、必要に応じて改編を行う。具体的には、技術力向上と、IT関連教育の推進のために、カリキュラム再編の検討を行う。 学校教育の主たる目的として、就職がある。採用試験が多様化し、また専門知識・技術と社会人基礎力が両輪で求められている為の教育活動を行い、よりきめ細かな個人指導を行っていく。 卒業生に対する指導は希望者個別の相談体制で対応していく。	

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

3-8 目標の設定

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	☒ 教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか ☒ 職業教育に関する方針を定めているか	4 4	理念に沿った教育課程は、教育課程編成委員会での提言を受け決定する。具体的な教育方針を定めている。	特になし。	特になし。	・教育課程編成委員会規程 ・教育課程編成委員会議事録 ・教育方針
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	☒ 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか ☒ 教育到達レベルは、理念等に適合しているか ☒ 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか ☒ 資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか	4 4 3 3	評価基準書を策定し、評価基準書に準拠したシラバスに教育到達レベルを明記しており、理念に適合している。 コース・科目によっては資格目標を定めており、支援体制を明確にしている。	コース毎に取得の必要な資格・免許を精査する。	特になし。	・評価基準書 ・シラバス

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育課程編成委員会を通じて理念に沿った教育課程は編成されており、教育到達レベルは評価基準書として策定されていて、シラバスに明記されている。具体的な教育方針を定めている。また資格取得に関しては、服飾の専門課程においては、取得可能な資格への取り組みを継続する。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

3-9 教育方法・評価等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	☒ 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか ☒ 議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか ☒ 授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか ☒ 授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか ☒ 修了に係る授業時数、単位数を明示しているか ☒ 授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか ☒ 授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか ☒ 授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか ☒ 職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか	4 4 4 4 4 4 4 3 3	教育課程編成委員会に関する規程を定め、教育課程編成委員会を年2回以上開催している。委員会の提言により教育課程を編成している。教育課程編成委員会の議事録は編成過程が明確に分かるように作成している。作成した議事録は教育課程編成委員に回付し、内容の承認を行っている。 授業科目の目標に照らして適切な教育内容を提供し、講義・演習・実習等の授業形態も適切に運営している。 シラバスは作成されている。 平成30年度より「単位制」「選択授業制」を導入して、卒業要件として62単位を定め学生便覧で明示している。科目を必修・選択必修・自由選択に配分して同様に明示している。	授業評価を教員の自己評価で実施しているが、教員が各々授業内容、授業方法の工夫をしているかが課題である。	自己評価をする自己診断チェックシートにより、授業改善がなされているかのチェックを上席が行う。	・シラバス ・教育課程編成委員会議事録 ・学則 ・学生便覧 ・自己診断チェックシート

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-1 続き	☒ 職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか ☐ 単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか ☒ 授業科目について授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか ☒ 教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか	4 3 4	教育課程編成委員会の提言を基にカリキュラムの再編成を行った。単位制を平成 30 年度導入して、履修科目の登録に関しての指導を行っている。シラバスは作成しているが、コマシラバスは作成していない。教育課程は定期的に見直している。	IT 関連教育を推進して行くが、現カリキュラムで良いかどうか。	教育課程編成委員の意見を聞きながら検討する。	・学則 ・シラバス
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか	☒ 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか ☒ 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか ☒ 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	3 3 3	教育課程編成委員は卒業生・関連業界の方で構成されており、意見聴取や評価を行っている。 卒業生を招いてのパネルディスカッションを通じて教育効果のヒアリングを実施している。	特になし。	特になし	
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	☒ キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか ☒ キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか	4 4	1 年生後期と 2 年生前期に就職ガイダンスの授業を実施している。授業内容も常に最新の情報を導入し工夫している。	特になし。	特になし。	・シラバス

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-3 続き	☒ キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	4	就職先には卒業生評価アンケートを行い、卒業生には来校時にアンケートを実施している。 アンケート結果をカリキュラムに反映させる。	アンケートの実施方法や内容を精査する必要がある。	アンケートの実施方法や内容について、適切な方法・内容を検討する。	・卒業生評価アンケート
3-9-4 授業評価を実施しているか	☒ 授業評価を実施する体制を整備しているか ☒ 学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか ☐ 授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか ☐ 教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか	2 2	授業評価として、自己診断チェックシートにより教員の自己評価で実施している。授業改善に活かされているか、必要に応じて上席が面談という形で、フィードバックしている。	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育課程編成委員会を適切に開催しており、議事録も作成している。教育課程編成委員会の提言に基づき授業は編成されており、授業目標はシラバスに明記されている。シラバスのフォーマットを平成 30 年度後期より授業の進行状況が記入出来るように一部変更した。平成 30 年度より「単位制」「選択授業制」を導入した。授業評価は自己評価で平成 29 年度後期より実施している。	特になし。

最終更新日付	令和 2 年 3 月 15 日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------------	-------	-------

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・ 修了認定基準を明 確化し、適切に運 用しているか	☒ 成績評価の基準について、 学則等に規定するなど明確 にし、かつ、学生等に明示し ているか ☒ 成績評価の基準を適切に 運用するため、会議等を開く など客観性・統一性の確保に 取組んでいるか ☒ 入学前の履修、他の教育機 関の履修の認定について、学 則等に規定し、適切に運用し ているか	4 4 4	成績評価基準は学則に 明記されており、学生に 配布する学生便覧にも明 記している。成績評価の 基準はシラバスに明記さ れており、それを基に適 切に運用されている。 校長・教員で1年生は進 級判定会議、2年生は卒業 判定会議を行い客観性・ 統一性を保っている。	特になし。	特になし。	・学則 ・学生便覧 ・シラバス ・進級・卒業判定会議 資料
3-10-2 作品及び技 術等の発表におけ る成果を把握して いるか	☒ 在校生のコンテスト参加 における受賞状況、研究業績 等を把握しているか	4	学校を通じて応募した 作品についてはすべて把 握している。また平成30 年度より学内技術審査会 を開始した。	学内技術審査会を服飾 造形、卒業作品で開始し たが、他の授業に広げる かどうか。	デザイン画、ロールプ レイングで検討してい る。	・コンテストの概要 資料 ・学生の作品

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価は学則に明記されており、学生に配布する学生便覧にも掲載している。 成績評価基準はシラバスに明記されており、それを基に適切に運用されている。 また成績評価を確定する進級判定会議、卒業判定会議は厳正に行われている。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

3-12 教員・教員組織

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	☒ 授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか ☒ 授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか ☒ 教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか ☒ 教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか ☒ 教員の採用計画・配置計画を定めているか ☒ 専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比など教員構成を明示しているか ☒ 教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか ☒ 教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか	4 4 3 4 4 4 4 3	授業科目を担当する為の教員の資質は専修学校設置基準第 41 条を基準としている。 採用時の教員の知識・技術・技能レベルを確認している。 教員採用において関連業界と連携している。 採用時に設置基準及び担当科目の知識、技術のレベルを確認し、採用している。 採用計画は、次年度の事業計画に合わせ、学校で採用計画を立案し、法人事務局においては、次年度の予算と照らし合わせ、検討をしている。 採用手続にあたっては、労働基準法、ハローワークのガイドラインに基づき、適切な手続を行っている。	教員の知識・技術・技能レベルに関しては、採用時に確認しているが、採用時以外ほとんどしておらず、必要に応じて関連のレベルに適合しているか精査する必要がある。 また、職業実践専門課程に認定された事をふまえ、企業経験のない教員に対する担当専攻分野の実務に関する再教育が必要である。	時期を定めて適宜レベルに適合しているかを検証する方法を確立する。 連携企業先を選定して、教員を派遣して、就業研修と共に再教育を行う。	・就業規則 ・人事規程 ・事業計画・採用計画書 ・職務分掌

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	☒ 教員の専門性、教授力を把握・評価しているか ☒ 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか ☒ 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取り組んでいるか ☒ 教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか	3 3 3 3	シラバスにより把握している。関連業界との連携による教員の資質向上のための研修に計画的に取り組んでいる。 教員が個人的に活動している研究や自己啓発に関して支援はしている。 教員の企業現場における専門技術知識の研修を実施した。	教員の自己評価、授業評価アンケートを実施して教員の授業力の向上に活用するため面談というかたちでフィードバックしている。 教員個人へのキャリア開発の支援を更に強化する必要がある。	適時にセミナー参加というかたちで実施している。今後は IT 関連教育の推進の為、それに関連したセミナーに積極的に参加を促す。	・シラバス
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	☒ 分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか ☒ 教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか ☒ 学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか ☒ 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか ☒ 専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか	4 4 4 4 3	教員組織は授業内に必要な体制を整備しており、業務分担・責任体制は組織図等で明確に定めており、講師会を実施し、専任間、専任・非常勤講師間の連携・協力体制も構築している。また非常勤講師に、学生の個人カルテを開示した。アクティブラーニングの手法による授業では複数の教員が連携して取り組んでいる。	特になし。	特になし。	・華服飾専門学校組織図 ・職務分掌 ・シラバス

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教員の採用は業界と連携し専修学校設置基準を基準に採用している。教員の教授力はシラバスを基に把握しているが、今後は授業評価アンケート実施による適切な評価及び教員のキャリア開発支援に繋がる更なる教育研修体制を検討する。	※講師会…専任と非常勤講師が教育方針、授業内容、スケジュールについて、打ち合わせを行う行事。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

基準4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職率の目標を設定し専門分野への就職について学生の動向を確認している。また、就職活動の早期化に伴い、早期意識付け、企業との連携を図りながら就職活動支援を行っているが、希望に沿った職種への就職や、早期意識付けが学生によって差がある。合わせてパタンナー等の専門職希望者を増やすことや、第一希望企業への合格率を向上させるための対策も課題である。また採用試験が多様化しているため、企業に合わせた対策も課題となっている。 資格・免許の取得率は目標を設定し、全国平均との比較をしながら合格率の向上を目的とした特別講座も開設しているが、年度により合格率に差がある。 卒業後の実態について就職先企業を対象に卒業生評価アンケートを実施して、企業より社会人基礎力の不足等、教育に対する課題も明確になった。 コンテスト参加状況等は就職先、配属先が多様であり、把握が難しい実情もある。	早期意識付けのため、1年次より就職ガイダンス（授業）、就職活動研修等行っている。主体的に活動させる為、校内で行っていた企業説明会をやめて、学外の説明会に自主的に参加させる事とした。企業研究の一環として、会社見学、展示会見学等も希望者を募り、自主的に活動させている。また実践教育として、実学研修をコース毎に行うなどより実践的にして行っている。採用試験の多様化に関しては、企業の採用試験内容にあわせた、よりきめ細かな個人指導を行う事とした。 またファッション関連の仕事（パタンナー等）の魅力とやりがい学生に理解させるために企業と連携した授業や研修等を実施する。 資格・免許試験の受験対策は、学生の理解度を把握しながら講義間での連携を深めて、年度毎の対策を講じて合格率の向上を図る。 企業からは専門知識・技術と社会人基礎力の両面が求められている為、カリキュラムに反映し対応する。 コンテスト参加状況等は企業訪問時のヒアリングや担任を通じて定期的に状況把握する。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

4-13 就職率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	☑就職率に関する目標設定はあるか	4	就職希望者は100%就職させるという目標を設定している	多様な服飾業界の業種に沿ったコース編成を行い、目指す職種を定めているが、目指す職種以外の職種に就職するケースが散見される。 早期意識付けを行っているが、学生によって意識に差がある。 合わせてパタンナー等の専門職希望者を増やすことや、第一希望の企業の採用試験の合格率を向上させるための対策も課題である。	企業研究により早期（1年次2月までに）に職種・企業を決めさせる事が重要である。 就職活動への意識を上げる為に定期的な面談や企業説明会への参加を促す等継続実施する。 ファッション関連の仕事の魅力ややりがい教授できるような授業や研修を企業と連携し立案する。	・就職者決定リスト ・就職活動状況報告書 ・シラバス
	☑学生の就職活動を把握しているか	4	就職担当と担任が連携し、学生の就職状況を確認している。就職活動の早期化に伴い、早期意識付けの目的で1年次10月から就職活動の授業を実施している。			
	☑専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか	4	企業との連携を図りながら就職活動支援を行っている。常に動向を把握してデータ更新し管理している。			
	☑関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか	4				
	☑就職率等のデータについて適切に管理しているか	4				

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職希望者が全員アパレル業界へ就職できるよう、担任と就職担当が連携して指導にあたっている。継続して早期意識付けの徹底やコースと就職先の整合性を高めること、合わせてパタンナー等の専門職希望者を増やすことや就職採用試験の合格率を向上させるための対策も課題である。また ODM・OEM 企業の新規開拓も必要である。	小人数制クラス対応の為、就職担当・担任が連携して、週1～2回会議を行い情報交換、状況の確認、対策を行っている。また、クラス担任も随時面談を行い学生一人ひとりの状況を把握している。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

4-14 資格・免許の取得率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	☑資格・免許取得率に関する目標設定はあるか	4	資格・免許の取得率は、合格実績と全国平均とを比較し、取得目標を決定している。合格率を上げる為の特別講座も開設している。	特になし。	特になし。	・資格の概要資料 ・資格毎合格率
	☑特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか	4				
	☑合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか	4				
	☑指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか	3				

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
資格・免許取得率のデータは毎回っており、全国平均合格率との比較を行っており、合格率は前年を目標とし前年を上回るよう指導している。また意義のある新たな資格を検討している。	本校で所定の講習を受け資格試験に合格した者には華服飾専門学校認定の着付一級講師免許を付与している。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	☒ 卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか ☐ 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	3	企業訪問や来校時に把握している。また、企業に向け、書面にて在籍者調査を実施。	前回アンケート調査に引き続き在職状況、離職状況とその理由を把握し教育活動に反映するため、今後も継続して調査実施する必要がある。	引き続き卒業生の在職状況調査を実施して把握に努める。	・卒業生在職調査

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
アンケート調査に引き続き在職状況、離職状況とその理由を把握し教育活動に反映するため、今後も継続して調査実施する必要がある。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職支援を組織的に取り組んでいる。しかし、指導窓口である担任の就職指導に関する力量、学生の就職意識の指導の点では課題もある。また、各企業、業界団体からの社会人基礎力の不足の指摘、さらには多様化する採用試験に対する対策強化も課題となった。 中途退学の要因、傾向、退学者数の把握、指導経過記録、低減対策、心理面でのフォローに取り組んでいる。特に心理面で不安を抱える学生が年々増加しており対策の強化が課題である。 学生相談の対応窓口は担任とし、状況に応じて学校医との連携により対応している。個人カルテをより活用した対応が必要である。留学生に関する相談体制等はある。 学生の経済的側面に対する各種支援体制は学校独自制度等で取り組んでいる。尚、学費の支援制度の拡充を図っているが、学費未納の学生が出ている課題もある。特に留学生に関して顕著である。 学生の健康管理については学校保健法に基づき体制を整え取り組んでいる。 学生寮の設置など生活環境支援体制については学生寮施設確保、管理運営等を提携先企業と連携して取り組んでいる。	担任の意識向上と就職指導力の強化及び学生意識向上の為に担任、就職担当との連携を強化する。カリキュラムの見直しにより企業の求める人材を育成する。就職特別講座等によるディスカッションや面接指導の強化、アパレル業界でのアルバイトやインターンシップなどを実施する。特に受験先の採用試験内容に応じたきめ細かい個人指導が重要である。 指導経過記録である個人カルテをこれまで以上に活用し、担任と教務の連携強化と教科担当教員との学生状況の情報共有などの対策を講じる。 個人カルテの更なる活用が課題である。また専任カウンセラーの配置等は今後の検討課題である。留学生の指導と、就職先を開拓する必要がある。 学費未納学生に関する対応規程を検討する。	特になし。

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
課外活動に対する支援体制については、クラブ活動を平成 29 年度より実施している。放課後を利用して活動を行い、学園祭などを発表の場としている。 保護者との連携体制については、個人面談実施により取り組んでいる。今年度は保護者会の開催が出来なかったことから、開催の検討が必要。 卒業生への支援体制については、再就職支援などの取り組みはあるが、同窓会組織、キャリアアップ講座実施、研究活動支援などへの対応が課題となる。 産学連携による卒業後の再教育プログラム開発実施に関しては、現在その実施がなされていない。 社会人のニーズへの対応については個別に対応されているが、単位認定の枠組みを検討する余地がある。	学生主体の課外活動を支援する体制を検討する。 適正な保護者会開催の頻度を再度検討し、保護者との連携強化を図る。 学生システムを導入して、卒業生データベースを整備し、積極的な同窓会活動を計画する。同様に同窓会開催とキャリアアップ講座実施等も検討する。 同窓会活動におけるキャリアアップ講座実施等の検討をする。 単位制を平成 30 年度より導入した。	特になし。

最終更新日付	令和 2 年 3 月 15 日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------------	-------	-------

5-16 就職等進路

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	☒ 就職など進路支援のための組織体制を整備しているか ☒ 担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか ☒ 学生の就職活動の状況を学内で共有しているか ☒ 関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか ☒ 就職説明会等を開催しているか ☒ 履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか ☒ 就職に関する個別の相談に適切に応じているか	4 4 4 4 4 4 4	就職担当・担任とのミーティングを週 1～2 回行って情報交換・共有を行っている。 学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等各企業、業界団体からの意見を取り入れている。 校内企業説明会を定期的に行っている。 カリキュラム内に就職指導の授業を設け、就職活動の流れから、実際の受験対策の指導を行っている。 キャリアセンターを開放し個別の相談に対応すると共に進捗状況を見て、適宜個別の相談を実施している。	担任の就職指導力の更なる向上と学生個人の意識啓蒙。 学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会等が出た意見、特に社会人基礎力の重要性。採用試験方法の多様化（グループディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイング、実店舗での販売等）への対策。	就職担当・担任とのミーティングを通じ、担任の就職指導力を向上させる。 学生の意識向上の為、就職担当・担任とのより一層の連携を高め検討していく。 社会人基礎力の中で、プレゼンテーション力向上のためには、質問力をあげる事が重要で、どの授業で行うか検討。アクティブラーニングを更に活用するためタブレットを導入してコミュニケーションツールとして活用する。 就職特別講座でディスカッションや面接指導の強化と、在学時からアパレル業界でのアルバイトを奨励している。	・シラバス ・教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会議事録 ・就職活動状況報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生の就職に対する意識を向上させる為、外部講師等を招き授業・講演を行っている。今後は講演内容や研修内容を検討し強化していく。	特になし。

5-17 中途退学への対応

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	☑中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか	4	退学の要因、傾向、退学者数は常に把握しており、月例の教員会議でも取り上げている。	心理面で不安を抱える学生が年々増加している。 担任が面談で把握し助言するようにしているが、退学に至るケースが多い。	心理面に不安のある学生に対し、担任が今まで以上にきめ細かい個別指導を行う。 ただ抜本的な解決を見出せていないのが実状である。	・学生個人カルテ
	☑指導経過記録を適切に保存しているか	4	指導経過記録として、			
	☑中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか	3	個人カルテを作成し、担任が適切に記入・保管している。			
	☑退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか	3	担任・教務で連携して退学率の低減に努めている。心理面で不安を抱える学生は担任と教務で対応している。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中途退学の低減対策として、入学前の体験入学においては、学校の理解を深めるとともに、ファッション業界の魅力も伝える等、キャリア教育も行っている。心理面に不安のある学生が増加しているので、担任・教務が連携してきめ細かい指導を行い、退学者数の低減に努める。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

5-18 学生相談

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	☐ 専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか ☐ 相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか ☐ 学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか ☒ 相談記録を適切に保存しているか ☒ 関連医療機関等との連携はあるか	3 3	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制はないが、相談を必要とする学生は担任が対応し、個人カルテを作成して、指導経過を記録している。 学校医との連携体制はある	個人カルテの更なる活用が課題。また専任カウンセラーの配置等は今後の検討課題。	個人カルテの記録、担任・教務の内容把握の徹底などより活用頻度を高める。	・学生個人カルテ
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	☒ 留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか ☒ 留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか ☒ 留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか ☒ 留学生に関する指導記録を適切に保存しているか	3 3 3 3	留学生の相談は、入学前は入学相談室が対応し、在学中は担任が行う。在籍管理・生活指導は担任が適切に行っている。就職・進学指導は担任と就職担当が行っている。指導記録は個人カルテとして学校教務が適切に保存している。	就職指導は就職担当が行っているが、留学生の入学数が少ないため、個別に対応している。 就労に関しては、法的な課題もある。	留学生の受け入れ先企業を開拓する。	・学生個人カルテ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
相談を必要とする学生は、担任が対応しているが、今後は個人カルテをより活用した対応が必要である。また、留学生の相談等は、概ね対応されている。	特になし。

5-19 学生生活

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	☒ 学校独自の奨学金制度を整備しているか ☒ 学費の減免、分割納付制度を整備しているか ☒ 大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援制度を整備しているか ☒ 全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に十分情報提供しているか ☒ 公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか ☒ 全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか	4 4 3 4 4 4	特待生制度、学費の減免制度、金融機関と提携した教育ローンの制度を募集要項に記載し、入学前より学生及び保護者に告知している。 災害時の家計急変時に対応する支援については、学生の家計状況を確認し、個別の対応を行っている。公的支援制度は窓口を設け、相談及び手続きの対応を行っている。 令和元年度、高等教育無償化確認校となった。	昨今の経済事情に鑑み、学費の支援制度の拡充を図っているが、学費未納の学生が出ている。学費未納の問題は、学校運営において大きな支障をきたす問題であるため、対応策を講じる必要がある。特に留学生において顕著である。	学納金規程の策定。 留学生学費減免制度	・募集要項
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	☒ 学校保健計画を定めているか ☒ 学校医を選任しているか ☐ 保健室を整備し専門職員を配置しているか ☒ 定期健康診断を実施して記録を保存しているか ☒ 有所見者の再健診について適切に対応しているか	4 4 4 4	学校保健法に基づき、年1回4月に健康診断を行っている。有所見者については、予防措置、治療指示をしている。また学校医を選任している。	特になし。	特になし。	・学則 ・学生便覧 ・健康診断実施記録

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-19-2 続き	☒ 健康に関する啓発及び教育を行っているか ☐ 心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか ☒ 近隣の医療機関との連携はあるか	4 4	衛生分野の併設校があることから、学園としてインフルエンザ、ノロウイルス等、予防のための注意喚起をポスター等で行っている。またアルコール製剤の設置をしている。 心身の健康相談含めた相談は、担任が行っている。 急な病気に対応するため、近隣の医療機関との連携を整備している。	近年精神疾患の学生がいる。今後、教員への対応方法のレクチャー、相談窓口の設置の検討が必要である。	相談窓口、専任カウンセラー等の設置を検討する。	・医療機関との連携に関する書類
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	☒ 遠隔地から就学する学生のために寮を整備しているか ☒ 学生寮の管理体制、委託業務、生活指導体制等は明確になっているか ☐ 学生寮の数、利用人員、充足状況は、明確になっているか	4 4	遠隔地から就学する学生に対しては、関連企業と提携し、施設・寮数を確保している。 管理面においては、寮に常駐している管理人より、定期的な報告を受け、生活指導に活かしている。	特になし。	特になし。	・募集要項 ・学生寮の案内資料
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	☒ クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか ☒ 大会への引率、補助金の交付等具体的な支援を行っているか ☒ 大会成績など実績を把握しているか	3 3 3	クラブは平成29年度設置した。課外活動（外部のファッションショーへの参加等）は学校が把握している。学校が把握している活動においては、一定の補助を行っている。	学生の自主性を育むために課外活動は有益である。今後、学生主体の課外活動を活発化する環境を整備していく。	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
経済的な支援、健康管理、遠隔地から就学する学生、課外活動等への支援体制は概ね整っている。学生相談に関する取り組みは、学校独自の個人カルテを活用しての支援体制で対応しているが、より一層の強化が必要である。特に留学生に対する対応が必要である。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

5-20 保護者との連携

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	☒ 保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか ☒ 個人面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか ☒ 学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか ☒ 緊急時の連絡体制を確保しているか	2 4 4 4	今年度は保護者会の開催は出来なかった。個別の面談での対応のみであった。個人面談結果は個人カルテに記入して適切に保存している。学力不足、心理面の問題解決において保護者と適切に連携している。緊急時の連絡体制も確保している。	保護者会は年1回の開催予定になっているがその時期を検討する必要がある。留学生の保護者（保証人）との連携がとれず課題となっている。	保護者会の開催時期の検討が必要。3月もしくは2年生に進級した4月で検討する。留学生に関しては解決策が見出せないのが実状である。	・保護者会開催資料 ・学生個人カルテ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
保護者会は開催できておらず、個人面談での対応となっている。個人面談結果は個人カルテに記入し保存、活用している。学習面、心理面で不安のある学生に関して保護者と適切に連携している。新たに留学生の保護者（保証人）との連携が課題である。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

5-21 卒業生・社会人

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	☒ 同窓会を組織し、活動状況を把握しているか ☒ 再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか ☐ 卒業後のキャリアアップのための講座等を開講しているか ☐ 卒業後の研究活動に対する支援を行っているか	2 3	同窓会は組織されているが積極的な活動状況にはない。卒業生のキャリア相談は対応している。	卒業生をフォローアップする体制の整備が必要である。また、同窓会の活動を通じたキャリアアップの支援を検討する余地がある。	学生システムを導入して、卒業生データベースを整備し、積極的な同窓会活動を計画する。	
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	☐ 関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか ☐ 学会・研究会活動において、関連業界等と連携・協力を行っているか		現状では卒業生に対する産学連携の再教育に関しては対応していない。	同窓会活動を通じた卒業生への再教育プログラムを検討する余地がある。	積極的な同窓会活動を検討する中で課題として模索する。	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	☐ 社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定しているか ☐ 社会人学生に配慮し、長期履修制度等を導入しているか ☒ 図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか ☒ 社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別相談を実施しているか	3 3	平成30年度単位制を導入した。図書室等の利用、個別相談は実施している。	単位制導入にともなって単位認定の枠組みを検討する余地はある。	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生をフォローアップする体制の整備が必要である。また、同窓会の活動を通じたキャリアアップの支援を検討する余地がある。社会人のニーズに関しては単位制導入を機会に単位認定等も検討する。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	☒ 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか ☒ 資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか	4 4	取得目標の資格・免許は教育課程上で明確に位置づけ、関連する授業科目、特別講座の開設等も明確にしている。	資格・検定取得が企業の求める人材と合致しているか常に精査する必要がある。	資格・検定の種類が適切なかの検討も必要だが、その資格が有益かどうか検討をする。	・学則 ・シラバス
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	☒ 資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか ☒ 不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか	4 3	資格・免許取得のための事前授業や指導体制は整備されており、補習等、不合格者への指導体制も整備されている。	特になし。	特になし。	・学則 ・シラバス

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
資格・免許取得の指導体制は確立されており、不合格者に対する指導体制も整備されている。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

基準6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
設置基準に定められた施設・設備を整備している。教育課程編成委員会の意見も取り入れて、工業用マシン、CAD の導入を行い、教育の質の向上に努めている。今年度から経過年数に応じた修繕、設備の更新を行うため、前年度に設備の導入計画を立て予算化したが、更に使用年数の経過に応じた計画的な修理修繕が必要である。 実学研修として工場見学、企業の展示会見学、素材展見学等実施している。平成 30 年度単位制導入にともなって「総合実習」という授業名で単位を付与している。 学園事務局を中心に防災体制を構築し、マニュアル化と避難訓練を実施しているが、教職員一人ひとりの役割の徹底が必要である。 尚、法令に基づき、消防設備の点検、特定建築物検査を実施し指摘事項については改善を行っている。	修理修繕と設備の更新については予算化され、修繕計画に基づき適切に処理されている。設備が更新されたかの確認も適切に行う。 教職員一人ひとりの役割を明確にし、徹底する必要があるが、それ以上に個々の防災意識を高め、柔軟な対応ができるようにする。	特になし。

最終更新日付	令和 2 年 3 月 15 日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------------	-------	-------

6-22 施設・設備等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	☒ 施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか ☒ 図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか ☒ 図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか ☒ 学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか ☒ 施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいるか ☒ 手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか ☒ 卒業生に施設・設備を提供しているか ☒ 施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか ☒ 施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、適切に執行しているか	3 4 4 4 4 4 4 2	設置基準、法令の基準に準じ、且つ教育上必要な設備を完備している。図書室においては、専門書の他にファッション誌の購入も行っている。学生の憩いの場として学生ラウンジを設け、バリアフリーにも努めている。 併設校に衛生分野の学校があることから、服飾学校においても、手洗い励行の指導を行っている。またトイレと共用部は、清掃業者により清掃を行い美化に努めている。 卒業生への施設・設備の貸出は求めがあれば可能な限り対応している。 施設設備の点検は、各教室に管理者を配し、併せて教室内の設備の点検を行い、故障時には事務局へ申請し対応する体制を整えている。	使用年数の経過に応じた計画的な修理修繕が必要である。	設備、施設は年度計画により整備する。図書に関しては学生に有意義なものを優先的に購入、充実させる。	・修理修繕計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
設置基準に定められた施設・設備を整備している。教育課程編成委員会の意見も取り入れて、工業用マシン、CAD の導入を行い、教育の質の向上に努めている。今年度から経過年数に応じた修繕、設備の更新を行うため、前年度に設備の導入計画を立てて予算化した。	特になし。

最終更新日付	令和 2 年 3 月 15 日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------------	-------	-------

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	☒ 学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか ☒ 学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか ☒ 関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか ☒ 学外実習について、成績評価基準を明確にしているか ☒ 学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか ☒ 学外実習等の教育効果について確認しているか ☒ 学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか ☒ 卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先等に行事の案内をしているか	2 2 4 2 2 2 3 3	インターンシップは正規の授業として教育課程上の位置づけはされていないが、実践的な職業教育を行う上で有意義であるため、関連企業と連携し実施している。 実践教育の推進として実学研修の充実を図っている。平成 30 年度「単位制」の導入に伴い総合実習として評価をして単位を付与している。また研修後はレポート提出を課している。 学校行事については学生に積極的に参加させている。特に鶯華祭は学生の作品（習熟度）を公開できる機会であるため、卒業生・保護者はもちろん、就職先、高等学校にも案内をしている。	特になし	特になし	・学則

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
平成 30 年度単位制の導入に伴って、実学研修（学外実習等）を「総合実習」として正規授業として単位を付与している。	特になし。

最終更新日付	令和 2 年 3 月 15 日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------------	-------	-------

6-24 防災・安全管理

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	☒ 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的行動のマニュアルを整備しているか ☒ 施設・建物・設備の耐震化に対応しているか ☒ 消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか ☒ 防災（消防）訓練を定期的に実施し、記録を保存しているか ☒ 備品の転倒防止など安全管理を徹底しているか ☒ 教職員・学生に防災研修・教育を行っているか	3 4 4 4 3 3	学園事務局を中心に防災体制を構築し、マニュアル化している。毎年避難訓練を実施している。毎年新入生には防災グッズを配布し、水、食料等の防災用品の備蓄を行っている。 平成22年にすべての校舎の耐震化が終了しており、緊急地震速報の設置をしている。 法令に基づき、消防設備の点検、特定建築物検査を実施し、指摘事項については改善を行っている。	防災マニュアルの構築で一定の整備はできているものの、教職員一人ひとりの役割の徹底が不十分である。 キャビネット等の転倒防止対策ができていない箇所がある。	教職員一人ひとりの役割を明確にし、徹底する必要があるが、それ以上に個々の防災意識を高め、柔軟な対応ができるようにする。 すべてのキャビネット等の転倒防止対策をする。	・ 防災マニュアル ・ 備蓄品リスト
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	☐ 学校安全計画を策定しているか ☒ 学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか ☒ 授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか	4 4	安全管理では、不審者対策として、受付での入退館チェックを行っている。夜間は人的、機械警備の両方を導入し、学校財産の保全に努めている。	学校安全計画は策定していないが危機管理規程は策定している。	特になし。	・ 警備チェック表

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-24-2 続き	☒ 薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に対応しているか ☒ 担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか	4 4	薬品等の管理については、持出等を記録し、適切に管理している。 授業中の事故や怪我については、対応マニュアルを策定している。 学外実習は担当者を明確にし、学生には傷害保険に加入させ、不慮の事故に備えている。	特になし。	特になし。	・事故対応マニュアル

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学園事務局を中心に防災体制を構築し、マニュアル化をしている。教職員の一人ひとりの役割を明確にしているが、それ以上に個々の防災意識を高め、柔軟な対応ができるようにする。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月14日	記載責任者	岡田 和典
--------	-----------	-------	-------

基準7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
ファッションの全体需要が減少する中で、大きな入学者の増加は見込めない。留学生を多く受け入れている学校もあるが、日本語レベルによっては学習についていけず退学に至るケースもある。また、生活習慣が異なり欠席や遅刻も多く通学できていない留学生もいる。課題は高校生の新卒人数が減り、更にファッションを職業に選ぶ希望者が少ない中でいかに入学者を増やすかである。 まずは本校を認知してもらうこと。次に本校に関心を持ってもらうこと。三番目にオープンキャンパス参加まで導くこと。そして最後に出願につなげること。 その為には、SNS等で華の校風や日常の授業・取り組みを含め常に発信していく必要がある。一方的に発信していても見てくれなければ意味が無いことは自明である。校内ガイダンスや高校訪問を繰り返し、高校生に本校をいかなる形でも認識してもらうことが先決である。AO入試含め、高校生の学校選びは以前より早期化している。 現実的には新年度向けのパンフレットを予定通り完成させ、ホームページの更新を行い、オープンキャンパスの日程を早めに告知することが大前提である。 オープンキャンパス参加者を出願につなげる為の歩留まり向上には、何が原因で他校に流れてしまうのかの原因追求も必要である。	横並びで規模の同じ服飾専門学校が多数ある中で、特徴や校風を明確に打ち出さないとオープンキャンパスへの参加にはつながらない。具体的には文章でしっかりPRするだけでなく、SNSを活用し生の情報を学生目線、あるいは学生から発信することが高校生に訴える有効な手段として引き続き行っていく。本校のHPを見てもらうにはきっかけが必要である。インフルエンサーのような人材がいない限りは従来通り地道に高校ガイダンスに参加し高校訪問の範囲を広げて行い、当校を認知してもらう。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月13日	記載責任者	坂本 宗寛
--------	-----------	-------	-------

7-25 学生募集活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	☒ 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか ☐ 高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか ☒ 教員又は保護者向けの「学校案内」等を作成しているか	3 4	高等学校等の校内ガイダンス、会場ガイダンス、見学会を通じて教育活動等の情報提供をしている。 オープンキャンパスにおいても、様々な授業体験や教員との面談(相談)を実施している。 保護者、教員向けの「学校案内」は作成していないがオープンキャンパスや学校見学は積極的に参加を受け入れている。	更に多くの情報提供とその提供方法の検討をする。 日常の授業内容や学生生活・行事等学校生活が想像できるような媒体(資料)の作成は必要。	現在、学生は授業でタブレットを使用している。オープンキャンパスでもタブレットを活用し日常の授業の様子を見せたり模擬授業を行いリアルな感覚で好感を得ているので引き続き取り組む。	入学案内書類一式 ・リーフレット ・ホームページ
7-25-2 学生募集を適切、かつ、効果的に行っているか	☒ 入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか ☒ 専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っているか ☒ 志願者等からの入学相談に適切に対応しているか ☒ 学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介しているか ☒ 広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか	4 4 4 3 3	入学基準を明確にし、その基準を募集要項に明記している。ルールに従って募集活動を行っている。志願者等・学校案内時等、個々に応じた対応・入学相談を実施している。学科・コースの特徴等も詳しく説明している。 個人情報取り扱い・管理にも十分に注意をしている。	服飾系の希望者が少ない中でいかに集客し参加者を入学に結びつけ歩留まりを上げるかが課題。現在実施している授業内容が何に役立つのか、楽しいのかが伝わりきっていない。在校生を活用し、生の声でPRする必要がある。 今後は型にはまった先生目線の情報ではなく、生の声を参加者に届けることが大切である。	オープンキャンパスの内容を期間中であつても集客効果の高い内容に随時見直しを行い参加者の人数を増やすと共に在校生を活用し親しみやすい雰囲気作りを行う。テクニカル科であれば様々な作品作りを通して縫製などのスキルが身に付くことをイメージさせるようにする。	入学案内書 ・募集要項 ・オープンキャンパス ・見学の案内 ・イベントのお知らせ ・ホームページ

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-2 続き	☒ オープンキャンパス等の実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか ☒ 志望者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取入れているか	3 3	入学後のミスマッチを防止するため志願者には複数回のオープンキャンパス参加を促している。またタブレットを利用し実際の授業が一部体験できるように内容の工夫を行っている。志願者は高卒以外にも多岐にわたる。入試方法もAO入試など学校選びの早期化にも対応の必要あり。	オープンキャンパスではもっと在校生を活用し、ホームページなどのSNS上でも日常の様子を常時発信していく。 また、高校3年生からでなく、2年生のうちから学校選びは始まっている。	高校2年生の校内ガイダンスにも積極的に参加して学校案内をしていく必要がある。	入学案内書 ・募集要項 ・イベント案内 ・ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
定員の充足はもちろんであるが、適切な情報提供を行い、自主規制に則した募集活動は、専門学校の信頼を得るため必要である。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月13日	記載責任者	坂本 宗寛
--------	-----------	-------	-------

7-26 入学選考

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考 基準を明確化し、 適切に運用してい るか	☒ 入学選考基準、方法は、 規程等で明確に定めている か ☒ 入学選考等は、規程等に 基づき適切に運用している か ☒ 入学選考の公平性を確保 するための合否判定体制を 整備しているか	4 4 4	入学選考基準、方法は 規程で明確に定めてお り、適切に運用している。 合否判定は入学選考委 員会において、適切、公 平に実施されている。	選考方法については 募集要項に記載されて いるが、細かい基準は記 載されていない。	今後は募集要項に記 載するか検討する。	・募集要項 ・調査書
7-26-2 入学選考 に関する実績を把 握し、授業改善等 に活用しているか	☒ 学科毎の合格率・辞退率 などの現況を示すデータを 蓄積し、適切に管理してい るか ☒ 学科毎の入学者の傾向に ついて把握し、授業方法の 検討など適切に対応してい るか ☒ 学科別応募者数・入学者 数の予測数値を算出してい るか ☒ 財務等の計画数値と応募 者数の予測値等との整合性 を図っているか	4 4 4 4	学科毎の合格率・辞退 率のデータを蓄積して適 切に管理している。 学科毎の入学者傾向に 基づき教育課程編成委員 会を開催して、授業方法 を検討しシラバスを作成 している。 入学予測を行い財務と の整合性を図っている。	特になし。	特になし。	・合格率・辞退率データ ・教育課程編成委員会議 事録 ・シラバス

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学選考基準、方法は明確に定めており、入学選考委員会で合否判定を適正に行っている。学科毎の合格率、辞退率のデータは蓄積されており、月例の報告会で報告している。入学までの数値的把握と分析が必要である。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

7-27 学納金

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	☒ 学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか ☒ 学納金の水準を把握しているか ☒ 学納金等徴収する金額はすべて明示しているか	4 4 4	学納金の算定にあたっては消費税の変化等、社会状況に鑑み、算定を行い、最終的に理事会の承認を経て決定している。 在学中の学納金については全て明記し、追加徴収をしないようにしている。	特になし。	特になし。	・募集要項
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱いを行っているか	☒ 文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っているか	4	入学辞退者への返還金については、文部科学省の趣旨に基づいて募集要項に明示し、適切に取り扱っている。	特になし。	特になし。	・募集要項

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学納金を算定等及び入学辞退者への返還金等に関しては、適正な取り扱いがなされている。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月14日	記載責任者	岡田 和典
--------	-----------	-------	-------

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
充実した専門教育の実施に必要な教職員、施設設備等を確保して、学校運営を行っており、借入金も無く設備投資等も全て自己資金で行うなど、中長期的な学校の財務基盤は安定している。 主要な財務数値についても各種会計資料等を有効に活用し、推移を正確に把握しており、年度予算の執行についても妥当であると認識している。 中期計画について具体性が欠けているという認識を持っていたが、平成 28 年度に「中期 3 ヶ年経営計画」を策定し予算編成や予算執行について問題点を洗い出し改善を実施するなどして、中期的な計画をより具体的なものにした。 財務の監査については、本学園顧問の公認会計士の指導により適正な決算書類を作成して、監事の監査に臨んでいるが、今後は外部監査の検討も必要である。 財務情報の公開については、保護者等関係者の理解と支持を得るためにも極めて重要であり、閲覧申請書による財務書類の公開だけでなく、学校法人会計基準に準拠した形式によりホームページ等インターネットを活用し行なっている。	今後、より健全な学校運営を行っていくために、「より適正な中期計画の策定」と「入学者の確保」と「資産の有効活用」を重視した予算計画と執行に取り組み、その妥当性を将来的には外部監査も視野に入れた監査実施を行い、更なる改善に努める必要がある。	学校法人華学園には華服飾専門学校、華調理製菓専門学校、華学園栄養専門学校の 3 校がある。同一敷地ということもあって入学式、卒業式、学園祭等の学校行事は合同で行っており、財務についても学校法人全体の財務という形でとらえることがほとんどであるが、当学園は設立以来、堅実で安定した学校運営を行ってきており、強固な財政基盤を堅持している。

最終更新日付	令和 2 年 3 月 14 日	記載責任者	岡田 和典
--------	-----------------	-------	-------

8-28 財務基盤

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	☒ 応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか ☒ 収入と支出はバランスがとれているか ☒ 貸借対照表の翌年度繰越収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか ☒ 消費収支計算書の当年度消費収支超過額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか ☒ 設備投資が過大になっていないか ☐ 負債は返還可能の範囲で適当な数値となっているか	4 3 4 4 4	応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握し、収支の均衡を保つため、経営改善計画を検討中。 定員充足率が落ち込んでおり、収入と支出の均衡が崩れつつあるので、入学者数の減少に対処するべく過大な設備投資を控えるなど経費節減に努めている。	現時点において財政基盤は安定していると思われるが、専修学校を取り巻く環境の変化に対応すべく、経常的支出の見直しなどを含め再点検が必要。	学納金に対する人件費率や経常的支出を見直し、適正な設備投資を行い安定した財政基盤を継続させる。	・財産目録 ・貸借対照表 ・資金収支計算書 ・事業活動収支計算書
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	☒ 最近3年間の収支状況（消費収支・資金収支）による財務分析を行っているか ☒ 最近3年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか	4 4	顧問の公認会計士の指導を受けて各種資料を作成し、その内容や数値に関する情報およびその推移について把握することを十分に心がけている。	財務状況については常に分析を行い現状の把握に努めている。	現在の収支状況および財務分析については個々の教職員まで広く共有させ、問題改善に取り組むべき。	・財産目録 ・貸借対照表 ・資金収支計算書 ・事業活動収支計算書

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-28-2 続き	☐ 最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか ☒ キャッシュフローの状況を示すデータはあるか ☒ 教育研究費比率、人件費比率の数値は適切な数値になっているか ☒ コスト管理を適切に行っているか ☒ 収支の状況について自己評価しているか ☒ 改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか	 4 4 4 4 4				

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
18歳人口の減少や経済の情勢など学校を取り巻く環境はますます厳しいものとなる。このような状況で収支の均衡を保ち、財政を健全化させていくためには、経常的支出の再点検や資産の有効活用などあらゆる面で見直しを図り、学納金や定員を見直すことなどが必要である。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月14日	記載責任者	岡田 和典
--------	-----------	-------	-------

8-29 予算・収支計画

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	☒ 予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか ☒ 予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか	3 3	予算計画の主要部門である総務部の人員を拡充して機能を高めるとともに、各学校との連携を強化し、単年度予算および中期計画を策定している。	中期計画については、まだ短期的に捉えているところがある。	中期計画については、視野を広めた計画の立案に取り組む。	・予算書 ・事業計画書
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	☒ 予算の執行計画を策定しているか ☒ 予算と決算に大きな乖離を生じていないか ☒ 予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか ☒ 予算規程、経理規程を整備しているか ☒ 予算執行にあたってチェック体制を整備するなど適切な会計処理を行っているか	3 3 3 3 3	予算編成および予算執行全般について、さまざまな改善を実施したことで無駄な支出を防ぎ、経費節減が図られている。	引き続き無駄のない予算編成と執行に関する改善に取り組む必要がある。	すべての教職員が無駄のない予算執行に取り組む。	・予算書 ・事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
年度予算については、適切な予算配分をしており、その執行も計画に従って妥当であると考えている。しかし、中期計画については、具体性に欠けていた面があったことを認識しており改善に取り組み、成果が表れ始めている。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月14日	記載責任者	岡田 和典
--------	-----------	-------	-------

8-30 監査

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-30-1 私立学校 法及び寄附行為に 基づき、適切に監 査を実施している か	☑私立学校法及び寄附行為 に基づき、適切に監査を実 施しているか	4	顧問の公認会計士によ り、総務部経理係に対し、 日常および決算書類作成 の会計指導が行われ、監 事による会計監査に臨ん でいる。	今後は監査法人によ る外部監査も視野に入 れなければならない。	特になし	・寄附行為 ・監査報告書
	☑監査報告書を作成し理事 会等で報告しているか	4				
	☑監事の監査に加えて、監 査法人による外部監査を実 施しているか	2				
	☑監査時における改善意見 について記録し、適切に対 応しているか	4				

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務については、顧問の公認会計士による日常および決算書類作成の会計指導を受けて監事による会計監査に臨んでおり、適正な会計監査が行われていると認識している。会計監査の責任体制も明確化され、監査の実施スケジュールも妥当であると考えている。外部監査の実施は今後の検討課題である。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月14日	記載責任者	岡田 和典
--------	-----------	-------	-------

8-31 財務情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-31-1 私立学校 法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	☒ 財務公開規程を整備し、適切に運用しているか ☒ 公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか ☒ 財務公開の実績を記録しているか ☒ 公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか	2 4 4 4	私立学校法における財務情報公開の基準に沿って、ホームページでの公開や希望者への閲覧体制を整えているが、明確な規定はない。	私立学校法における基準により情報公開は行っているが、財務公開規程が整備されていない。	財務公開規程を整備し、適切な運用を目指す。	・公開資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務情報の公開については、保護者等関係者の理解と支持を得るためにも極めて重要であり、学校法人会計基準に準拠した情報の公開を、今後も継続してホームページ等インターネットを活用し積極的に行なっていく。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月14日	記載責任者	岡田 和典
--------	-----------	-------	-------

基準9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
関連法令、専修学校設置基準に基づき学校運営の諸届及び学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運営している。また、セクシュアルハラスメントについては教職員に対し就業規則で徹底し、防止に努めているが、ハラスメント全般の防止に関する規程の整備が必要である。 個人情報の取扱いは法律に則り適切に行っている。また職員について、就業規則に個人情報の守秘義務を定めているが、適切な運用方法を徹底するため、取扱方針、規程の整備が必要である。 自己評価は今年度より学校点検委員会を組織し、その内容を精査している。また学校関係者評価委員については、規程、委員の選任等適切に取り組んでいる。評価結果については、経営層に報告し、改善に努めている。自己評価、学校関係者評価の評価結果は、ホームページにて周知している。 学校の概要、教育内容、教職員等教育情報については、学校案内等で積極的な情報公開に努めている。また日々の授業内容やイベント等、学校案内で取り上げていない事項については、ホームページのブログを活用して適時公開している。また外庭の掲示板でも公開している。	ハラスメント全般の防止に関する規程を整備する。 個人情報保護方針、セキュリティポリシーを策定する。 今年度、組織体制を定めたため、これを適切に実施し、継続していく。 特になし	特になし。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	☒ 関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っているか ☒ 学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか ☒ セクシュアルハラスメント等の防止のための方針を明確化し、対応マニュアルを策定して適切に運用しているか ☒ 教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談窓口を設置しているか ☒ 教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか	4 3 3 3 2	設置基準に基づき学校運営の諸届を行っている。文部科学省、東京都、台東区等、各行政に対して、適切に届出をし、運営している。 セクシュアルハラスメントについて、教職員に対しは、就業規則で定め徹底し、防止に努めているが、学生に対しては、現在行われていない。 「労働条件セミナー」「租税教室」の特別講座を、それぞれ社会保険労務士、税理士の方をお願いして、教員、学生が聴講している。	セクシュアルハラスメント以外のハラスメント行為に関する規程の整備が必要である。 学生に対するセクシュアルハラスメント防止策は現在、行われていない。	ハラスメント行為に関して「労働条件セミナー」でお話していただいている。	・学則

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
「労働条件セミナー」「租税教室」のセミナーで法令順守に関する研修を教職員・学生に行っている。 ハラスメント防止のための規程を整備するとともに、発生時の対応マニュアルの整備が必要である。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

9-33 個人情報保護

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	☒ 個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか	3	職員室は夜間施錠され、機械警備による防犯対策を講じており、業務時間外での情報漏洩やPCセキュリティ一面に対しては一定の保護はされている。しかし、日常業務での個人情報取り扱いについては、個人責任を負うところが多い。	個人情報保護規程の周知・徹底を図る。	保護すべき情報の範囲、情報の閲覧・アクセス制限等についての運用細則を全教職員に教育する。	・個人情報保護規程 ・学籍、成績等管理システム ・入学願書 ・生徒調査書 ・個人成績表 ・答案用紙
	☒ 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか	3				
	☒ 学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか	3				
	☐ 学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか	2				

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法令に基づく個人情報の守秘義務を定め運用しているが、適切な運用方法を徹底するため、取扱方針、規程の整備が必要である。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

9-34 学校評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	☒ 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか ☒ 実施にかかる組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取組んでいるか ☒ 評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか	4 4 4	学則に自己評価について規程を定め実施している。昨年度より学校点検委員会を組織し、その内容を精査している。評価結果については、学校長主導のもと、改善に取り組むよう組織化している。	将来的に第三者評価を受ける必要がある。	第三者評価を実現する為にも、継続的に学内の体制と意識の改善に努める。	・学則
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	☒ 評価結果を報告書に取りまとめているか ☒ 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	4 4	自己評価の結果は文部科学省のガイドラインに則り、ホームページで公開している。	特になし。	特になし。	・ホームページ ・公開資料
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	☒ 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか ☒ 実施のための組織体制を整備しているか ☒ 設置課程・学科に関連業界等から委員を適切に選任しているか ☒ 評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか	4 4 4 4	学校関係者評価について規程を定め実施している。委員の選任に関しては、学校評価ガイドラインに基づき、必要な委員を選任している。 評価結果については、経営層に報告し、改善に努めている。	特になし。	職業実践専門課程の認定継続のためにも自己点検・自己評価と併せ、継続して実施していく。	・学則 ・学校関係者評価委員会規定
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	☒ 評価結果を報告書に取りまとめているか ☒ 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	4 4	評価結果を取りまとめ、ホームページにて周知している。	特になし。	特になし。	・ホームページ ・公開資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己評価、学校関係者評価は実施体制を整備し評価を行っており、評価結果を報告書にまとめホームページで広く社会に公表している。今後は定めた組織体制で適切な実施を継続する。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

9-35 教育情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	☒ 学校の概要、教育内容、教職員等教育情報を積極的に公開しているか	3	学校の概要、教育内容、教職員等教育情報については、学校案内等で積極的な情報公開に努めている。日々の授業内容やイベント等ホームページにブログで公開している。	特になし	特になし	・入学案内書 ・ホームページ
	☒ 学生、保護者、関連業界等広く社会に公開しているか	3				

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
適切に適時情報公開に努めている	特になし。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献については、台東区、地域企業との協働や高等学校への講師派遣などにより取り組んでいる。また環境問題に関しても具体的に活動している。今後はこの活動についての情報公開に積極的に取り組む。 国際交流については、留学生の受け入れに関する活動に取り組んでいる。卒業後の就職に関わる在留資格変更が課題となる。 学生のボランティア活動については、身近な周辺の清掃活動や学校行事等における募金活動など安全や健康上、授業進度、就職活動を把握しながら学校が積極的に推奨し取り組んでいる。	社会貢献・地域貢献活動の取り組みをホームページで積極的に公開する。 服飾関係の就職に関わる在留資格変更に関する調査研究を検討する。 今後も取り組み可能な活動内容を検討する。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	☐ 産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程等を整備しているか ☐ 企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか ☐ 国の機関からの委託研究及び雇用促進事業について積極的に受託しているか ☒ 学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか ☒ 高等学校等が行うキャリア教育等の授業実施に教員等を派遣するなど積極的に協力・支援しているか ☒ 学校の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援しているか ☐ 地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか ☒ 環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか ☐ 職員・学生に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための研修、教育に取り組んでいるか	3 4 4 1 4 1	台東区教育委員会主催のキャンパスプランニング事業に参画しているが、今年度は実施しなかった。 高校のキャリア教育のための見学会、模擬授業を積極的に受け入れしている。 学校施設の外部への貸出については、求めがあれば、教育活動に支障が無い範囲で貸出をしている。 台東区が認定する「CO2ダイエット宣言」に参加し、省エネに取り組んでいる。紙のリサイクルを徹底して行っている。	教育活動同様、社会貢献・地域貢献事業についても積極的な情報公開を行い、専門学校の社会的評価の向上に努めたい。	学校案内はもとより、社会貢献事業は、ホームページで広く公開をする。	・キャンパスプランニングの受書

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-36-2 国際交流 に取組んでいるか	☐ 海外の教育機関との国際交流の推進に関する方針を定めているか ☐ 海外の教育機関と教職員の人事交流・共同研究等を行っているか ☒ 海外の教育機関と留学生の受入れ、派遣、研修の実施など交流を行っているか ☐ 留学生の受入れのため、学修成果、教育目標を明確化し、体系的な教育課程の編成に取り組んでいるか ☒ 留学生の受入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか	3 3	留学生対象の進路ガイダンスへの参加、留学生用の募集要項を作成し、日本語学校を訪問して、募集活動を行っている。	入学を希望する留学生は、卒業後、日本での就労を希望するケースが多いが、現制度において、服飾学校を卒業して日本で就労ビザを取得するのは困難である。しかしながら少子化に伴い、留学生の受け入れは、今後検討する必要がある。課題として留学生の日本語に対する未習熟がある。	留学生の受け入れは、国としての方針であり、教育のグローバル化が進む中、国際化は今後重要であるが、左記の事情に鑑み現状の維持をする。ただし海外のファッションの情報や技術の取得は教員の教育力の向上に繋がるため、情報収集を行い教育に活かす。	・留学生募集要項 ・留学生受入研修会 修了証

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の教育資源を活かした社会貢献は、教育活動に支障のない範囲で行っている。また高等学校が行うキャリア教育への支援は、見学会の受け入れ、出張講義等を積極的に行っている。国際交流については、現状、留学生の受け入れにとどまっている。教育のグローバル化が進む中で、専門学校としてどのように関わっていくかが課題である。	キャンパスプランニング事業とは「台東区全体をキャンパスととらえ、地域の様々な分野の専門家から子どもたちが学び、未来を築く。」が目的の台東区教育委員会主催の事業である。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

10-37 ボランティア活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	☑ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか	3	例年、学園祭において募金活動を行っている。	学生にボランティア活動を奨励することは、学生の社会性を育む上で必要であるが、授業や就職活動との関連もあるため、現状で適切と考えている。	今後も学校として可能なボランティア活動の内容を検討する。	・感謝状 ・学園祭プログラム
	☐活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか					
	☑ボランティアの活動実績を把握しているか	3				
	☑ボランティアの活動実績を評価しているか	3				
	☑ボランティアの活動結果を学内で共有しているか	3				

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校としても教育活動に支障がない範囲で実施している。上記以外にも、学生による学校周辺の清掃を行っている。	特になし。

最終更新日付	令和2年3月15日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------	-------	-------

4 令和元年度重点目標達成についての自己評価

(1/2)

令和元年度重点目標	達成状況	今後の課題
I. 学生募集 ～出願率を上げるために～ 1: 学生募集に関する問題点・課題 2: 校内ガイダンス参加状況 3: 華の魅力を伝える 4: 華の独自性とは 5: 入学パンフレットの見直し	I. 学生募集 ～出願率を上げるために～ 1: 学生募集に関する問題点・課題 ・昨年度出願率の良かった体験内容を取り入れた ・手伝い学生教育徹底。事前指導強化。 ・授業イメージが付きやすいように作品等を展示し学びの流れを視覚化。 2: 校内ガイダンス参加状況 ・参加校数は昨年度比△10 - 理由としては3年生での実施が減少。 3: 華の魅力を伝える ・高校へのアピール強化で教員も一緒に高校訪問へ同行。結果、出願に繋がった。 4: 華の独自性とは ・独自の授業をパンフレットに掲載しアピール - フリーゼミナール、タブレット導入等 5: 入学パンフレットの見直し ・技術力、発表力の向上をビジュアルで表現 ・学びの流れを視覚化し、その中で楽しさをアピール ・パンフレットとHPの連動	I. 学生募集 ～出願率を上げるために～ 1: 学生募集に関する問題点・課題 ・リピート参加者は増えたが出願率が低下。 - オープンキャンパス内容や面談対応の見直し 2: 校内ガイダンス参加状況 ・3月のガイダンスがコロナの影響で中止になってしまった。取り返すためのアプローチが重要 3: 華の魅力を伝える ・教員だけでなく、在校生と共に訪問。 - また、訪問先の選定も見直す必要あり。 4: 華の独自性とは ・独自性の打ち出しが弱い。 - 他校にはない魅力の洗い出しが必要。 5: 入学パンフレットの見直し ・外部委員より、パンフレットに個性やインパクトがないと指摘されているので、更なる見直しを早期より行う。

令和元年度重点目標	達成状況	今後の課題
Ⅱ. 教育活動 ～学生の質の向上～ 1：技術力の向上 ①カリキュラムの検討 ②学内審査会 ③プロソーイング 2：プレゼン力の向上 3：IT・ICT 関連教育の推進	Ⅱ. 教育活動 ～学生の質の向上～ 1：技術力の向上 ① カリキュラムの検討 総合実習としていた時間を服造関係（実習）に置き換え技術力向上に取り組んだ。 →・パターン検定3級に全員合格。 ・部分縫いの種類を増やし、作品のバリエーションが広がった。 ② プロソーイング 部分縫いに特化した授業で反復練習や再提出があることによって、綺麗に仕上げるという意識が高まった。 ③ 学内審査会 ・公の場で審査されることによって、技術力向上 ・要点をまとめる力、発表する力が身に付いた。 2：プレゼン力の向上 ・作品審査会をはじめ、授業内でのプレゼン機会を増やした。 3：IT・ICT 関連教育の推進 ・タブレット導入により、プレゼン資料作成の効率化が図れたと共に、PowerPoint を使用した発表も増えた。	Ⅱ. 教育活動 ～学生の質の向上～ 1：技術力の向上 ① カリキュラムの検討 技術力向上には引き続き取り組んでいくが、今後は総合実習の内容見直しが必要 ② プロソーイング 1年次の部分縫いを強化したが、まだ不足しているので、2年次にも部分縫いカリキュラムを入れていく。 ③ 学内審査会 審査会のやり方については随時見直しが必要。プレゼンのやり方をショー形式にする等、学生のモチベーションを更に向上させる必要がある。 2：プレゼン力の向上 プレゼンの機会は増やしたが、発表の質を向上させる必要がある。プレゼン方法の指導を徹底する。 3：IT・ICT 関連教育の推進 引き続き取り組んでいく

令和元年度重点目標	達成状況	今後の課題
Ⅲ. 教職員の資質向上 ～教職員の企業現場研修実施～ Ⅳ. 学修成果 ～第一希望合格率 80%目標～	Ⅲ. 教職員の資質向上 ～教職員の企業現場研修実施～ 平成 28 年度より外部講師の企業の現場で、ファッションテクニカル科教員の実学研修(CAD、パターン)を実施し、授業、教材の改善に活かした。また平成 30 年度より学生の実学研修に教員も参加して、企業の現場を見ることにより、変化の激しいファッション業界の現状を知り授業に活かしている。 Ⅳ. 学修成果 1. 就職率は過去 7 年間 100% (対就職希望者) を達成したが、第一希望への合格率は令和元年度 60%と目標には届かなかった。 年々就職に対する意識は高まり、早期内定、主要企業への継続した就職が図られている。	Ⅲ. 教職員の資質向上 ～教職員の企業現場研修実施～ 引き続き左記を実施する事に加えて、今後 IT 関連教育の推進にともなう、教員の研修、勉強が不可欠となる。 Ⅳ. 学修成果 引き続き就職率 100%、第一希望への合格率 80%を目指す、学生の目標に対する意識の持続、4 年制専門学校生との競合等が課題 また、縫製職の就職先の少なさが課題である。

最終更新日付	令和 2 年 3 月 15 日	記載責任者	坂本 克雄
--------	-----------------	-------	-------

